



クローズアップ  
〜今を生きる 人こそが宝〜  
第4回

和寒猟友会 会長 上口 静男(かみぐち しずお)さん

〜狩猟の技術を絶やすことなく、後継者に残していきたい〜

猟友会とは

近年、鹿による農作物被害が数多く報告されている。こういった被害報告を受けると、すぐに連絡が入り、現場の最前線で猟銃を構え駆除活動を行っているのが、和寒猟友会であり、その会長を務めているのが上口 静男(かみぐち しずお)さんである。そんな上口さんの長年の経験によ

る技術や体験談は、まさしく和寒の宝であり、おもしろい話ばかりである。

狩猟への道

野ウサギを捕まえるために山の中を1日中駆け回っても、全く捕ることができない。そんな技術を教えてくれたのが武内繁男さん(おじさん)だった。その影響がもっとも大きく、狩猟の楽しさや難しさ、

その過酷さを経験しながらも、昭和48年に狩猟免許を取得。散弾銃での狩猟活動からはじまった。

狩猟のこつ

散弾銃の射程距離は70mから80m。ライフル銃は約300mであることから考えれば、かなり近距離での射撃になる。今ではライフル銃の所持許可も持っている上口さんではあるが、当時の散弾銃での射撃はそう簡単に当るものではないという。この時に生かされるのがなんと、これも経験である。野ウサギにも習性があるように、鹿や熊にも同じような習性があり、その動物の習性を見極めることが大事であるという。また、地形なども考慮しながら逃げ込む方を予見していく。特に、木の茂みや暗いところに逃げ込むことが多いという。これまで射止めた動物は数多いが、一番大きかったのは、熊で体長2m10cm、体重は300kgを超えていた。恐怖感はあるかと訪ねると、射止め損ねたと

きが一番怖いらしい。特に子連れのメスであれば追っかけてくることもあるという。

狩猟のこだわり

狩猟といっても小さな命を奪うことに変わりはない。先輩たちから受け継がれてきたように、今でもみんなで丁寧に最後まで食べてあげることが一番の供養に繋がるといいます。また、猟に出かけた仲間を取った獲物は、みんなで分配するのが猟友会のルール。自然にゴミを捨てたりエサになるようなものがあると自然との共存も難しくなるという。最低限のルールをしっかり守り、安全で安心な生活が一番であると訴えかけている。

将来の夢

猟友会の会員は一時、4人まで減少した。町の支援もあり現在9人の会員数となったが、狩猟にはたくさんさんの経験と技術が必要。狩猟の技術を絶やすことなく、将来に残していきたいと、後継者の育成にも力を注ぐ。



上口 静男さん[和寒猟友会会長] 59歳  
和寒町字西町 TEL 0165-32-2493  
出身：和寒町  
経歴：1969年 北海道自動車短期大学卒業。 同年 辻永産業(現和寒自動車工業)  
1973年 和寒自動車工業 同年 狩猟免許取得 1984年 ライフル銃所持許可取得  
1992年 和寒自動車工業代表取締役 に就任 2004年 北海道鳥獣保護委員  
趣味：釣り